

乳幼児をかかえる保護者の子育ての現状

◆不安・悩み、出産意欲◆

平成18年3月

社団法人 全国私立保育園連盟

調査結果の概要

1

調査目的

本調査は、乳幼児を抱える保護者の子育ての不安や悩み、出産意欲、保育環境の現状を把握することを目的として、全国私立保育園連盟が主催する子育て環境研究会（代表：松田茂樹・第一生命経済研究所）が実施しました。具体的な調査目的は、

- ①保護者の日常的な子育ての現状
- ②子育ての不安や悩みが追加出産意欲に与える影響
- ③保育園・幼稚園から保護者に対するサポートが子育て不安や追加出産意欲に与える影響

を解明することです。

また、本調査では、保育園・幼稚園において求められる保護者に対するサポートの方向性を検討しました。

2

調査概要

調査対象：東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県内の私立保育園、公立保育園、私立幼稚園計38園の保護者、保育者、園長

調査時期：平成17年7～8月

サンプル数：園長調査38人、保育者調査808人、保護者調査6,104世帯

有効回収数（率）：園長調査32人（84.2%）、保育者調査496人（61.4%）、3,345世帯（54.8%、母親3,303人、父親2,648人、その他43人）

3

主要調査結果

- 1 保育園・幼稚園とも、普段の子育ての多くは母親が担っています。特に、保育園児の母親は仕事、家事・育児を合わせた労働時間が長く、時間不足による負担感が高くなっています。
- 2 保護者のうち、具体的な子育ての悩みを感じている者は少数です。しかしながら、悩みを持つ保護者は、保育者からの相談や情報提供を強く求めています。一方、漠然とした子育ての不安を感じている者は少なくありません。
- 3 母親においては、育児不安が高いと、追加出産意欲が減退します。
- 4 保育園・幼稚園から保護者に対するサポートは、育児不安や子育ての悩みを軽減します。また、保育園・幼稚園からのサポートは、育児不安からもたらされる母親の追加出産意欲の減退を防ぎます。

1) 子育ての様子

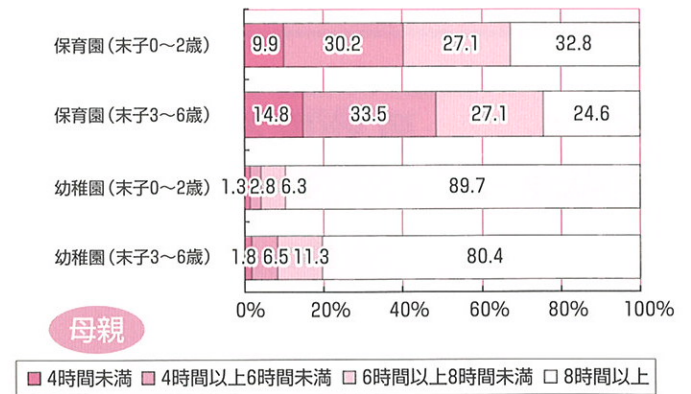
母親で長い家事・育児時間、保育園でも父親の家事・育児時間が短い背景に長時間労働の問題

保育園・幼稚園とも、平日の家事・育児時間は、母親で長く、父親で短くなっています(図1)。このため、子育てに関する心理的、身体的負荷が母親に多くかかっています。特に、保育園児の母親は仕事に加えて、家事・育児を行っているため、仕事と家事・育児の合計の労働時間が長くなっています。

父親についてみると、幼稚園児の父親よりも、保育園児の父親の方が、家事・育児につきやす時間が長くなっています。

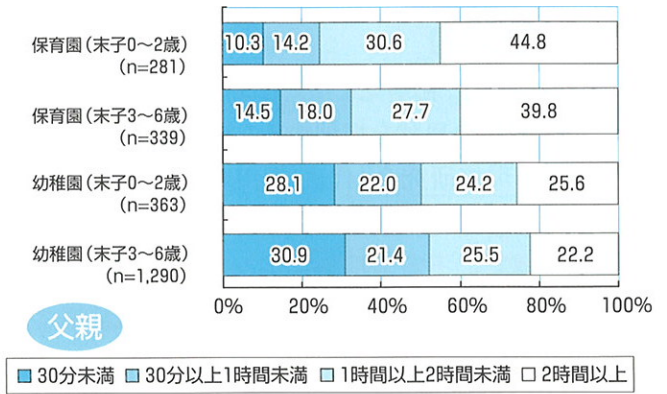
近年育児期にあたる年代の男性の長時間労働化がすすんでいるといわれます。本調査結果では、父親が子どもと一緒に夕食をとる回数は、「週4日以上」が26%に過ぎず、「週2-3日」が46%、「週1日」が20%です。父親の家事・育児参加が少ない背景には、それを可能にする時間的余裕がないという問題もあります。

図1 ■ 保護者の平日の家事・育児時間



母親

■ 4時間未満 ■ 4時間以上6時間未満 ■ 6時間以上8時間未満 □ 8時間以上



父親

■ 30分未満 ■ 30分以上1時間未満 ■ 1時間以上2時間未満 □ 2時間以上

2) 子育ての悩み

具体的な悩みをもつ保護者は少ない、しかし悩んでいる者は相談ニーズが高い

保護者の子育ての悩みについてみると、「子どもの叱り方・叱りすぎ」「子どもがいうことをきかない」「食が細い・偏食・過食」などの悩みが多くあげられています(図2)。

「子どもの叱り方・叱りすぎ」「子どもがいうことをきかない」という悩みは父親よりも母親で高くなっていますが、それ以外は総じて父母の悩みの差は小さく、父母共通の悩みとなっています。

いずれの項目についても、総じて悩んでいる割合は高くはありません。しかしながら、調査結果によると、悩みを持つ保護者は、保育園・幼稚園の保育者からの相談や情報提供等を強く望んでいます。例えば、「子どもが友だちの輪にはいっていけない」という悩みや子どもの発達の悩みを抱えている親は数としては多いものではありませんが、それらの悩みを抱える親の6割以上は保育者への相談を望んでいます。

図2 ■ 保護者の子育ての悩み

	母親 (%)		父親 (%)	
	とても悩んでいる	悩んでいる	とても悩んでいる	悩んでいる
子どもの叱り方・叱りすぎ	9.2	35.8	1.9	18.8
子どもがいうことをきかない	3.9	24.7	1.4	14.0
食が細い・偏食・過食	4.6	19.9	2.2	15.0
テレビやビデオを見すぎる	1.8	15.5	1.1	12.3
しつけができない	1.6	16.3	0.7	10.0
病気にかかりやすい	2.9	12.0	1.2	10.1
夜更かしなど生活リズムの乱れ	2.2	11.9	1.5	10.2
子どもの教育	1.6	13.5	0.7	9.7
友だちの輪に入っていけない	2.2	11.0	1.2	9.1
排泄の自立やおねしょ	2.3	9.7	0.9	5.9
子どもとの接し方がわからない	1.2	8.8	0.7	4.5
着替えや歯磨きなど身の回りの世話	0.6	7.1	0.5	4.9
子どもが友だちに乱暴してしまう	0.9	6.6	0.4	5.0
言葉や心身の発達が遅い	2.0	4.9	1.2	3.4

注:「とても悩んでいる」「悩んでいる」「あまり悩んでいない」「全く悩んでいない」の4件法で尋ねた質問の回答の前2者の結果

3) 育児不安

漠然とした不安を感じている保護者は
少なくない

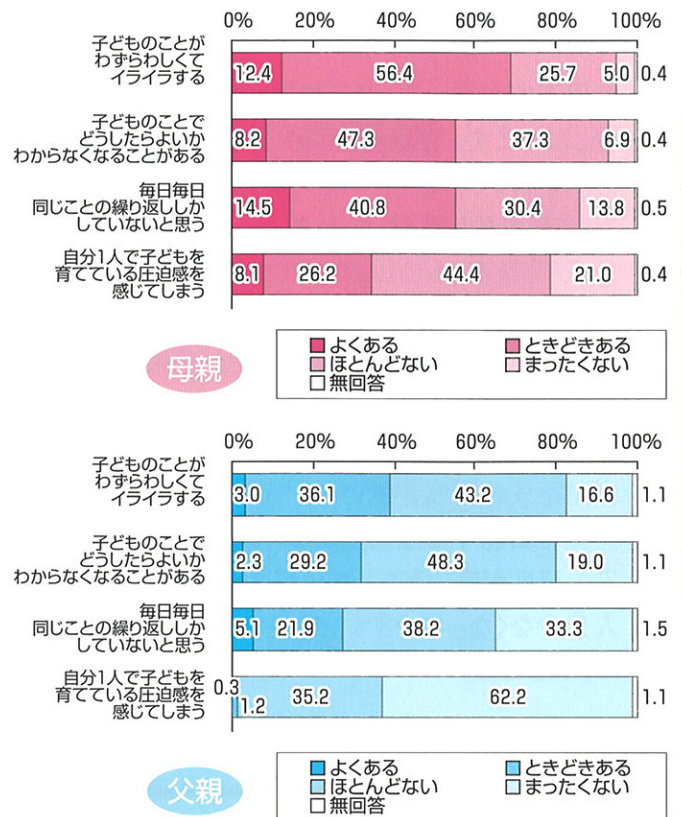
育児不安は、父親よりも母親の方が高くなっています(図3)。

母親では、「子どものことがわずらわしくてイライラする」ことがある(「よくある」+「ときどきある」)と答えた割合は68.8%にのぼります。「子どものことで、どうしたらよいかわからなくなることがある」ことも多くなっています。

父親は、母親よりも育児不安が低いですが、それでも「子どものことがわずらわしくてイライラする」ことがある者が39.1%、「子どものことで、どうしたらよいかわからなくなることがある」がある者が31.5%います。

子育ての悩みの調査結果と合わせると、保護者の育児不安は、個々具体的な問題についての悩みというよりも、漠然とした不安感であることがうかがえます。

図3 ■ 保護者の育児不安



4) 保育園・幼稚園からのサポートと子育ての不安や悩みの関係

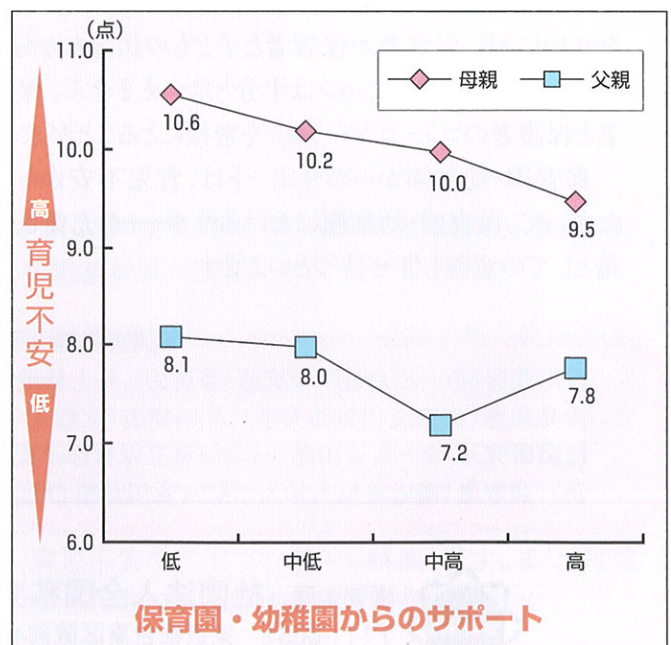
サポートが多いと保護者の不安や悩みは減少する

保育園・幼稚園から保護者に対するサポート(※1)は、保護者の育児不安や子育ての悩みを軽減させます。この効果は、父親よりも母親において顕著でした。

母親の場合、保育園・幼稚園からのサポートを多く感じているほど、育児不安度(※2)が低下します(図4)。子どもの年齢別にみると、乳児期よりも幼児期においてこの関係は強くみられました。一方、父親では、このような関係はみられませんでした。

本調査では、子育ての悩みについても、母親では、保育園・幼稚園からのサポートを多い方が、悩みが少なくなるという関係がみられました。

図4 ■ 保育園・幼稚園からのサポート度と保護者に育児不安度の関係



※1 保育園・幼稚園からのサポートは、「担任の先生は、あなたの子どものことをよく理解してくれている」など8項目の質問から構成した尺度である。

※2 図3の各質問について、「よくある(4点)」「ときどきある(3点)」「ほとんどない(2点)」「まったくない(1点)」と配点した上で、これを合計した尺度である。

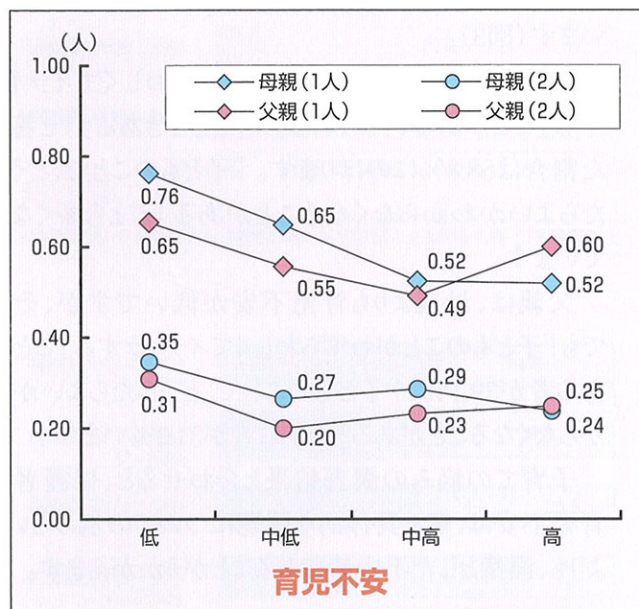
5) 育児不安と追加出産意欲の関係

育児不安が高いと追加出産意欲は低下する

育児不安が高いことが追加出産意欲の低下に強く影響しています。育児不安が少子化のひとつの要因であるみられていますが、この関係が客観的なデータによって統計的に裏付けられました。

子ども数が1人の母親のうち最も育児不安の程度が低いグループに属する者は0.76人追加で出産する意向があるのに対して、最も育児不安の程度が高いグループに属する者はその値が0.52人で、0.24人分少なくなっています(図5)。子ども数が2人の母親では、最も育児不安の程度が低いグループに属する者は0.35人追加で出産する意向があるのに対して、最も育児不安の程度が高いグループに属する者は0.24人で、0.11人分少なくなっています。父親では、そのような関係はみられません。

図5 ■ 育児不安・子ども数別にみた追加で
出産する予定の子ども数



4

求められる保育園・幼稚園による保護者に対する支援の充実

乳幼児を抱えた保護者の子育ての不安や悩みが社会的に問題になっています。本調査結果は、保育園・幼稚園においても、子育て不安や悩みに対する支援の充実が求められていることを示唆します。

調査結果をふまえると、保育園・幼稚園から保護者に対する相談や情報提供等のサポートを一層充実させることによって、保護者の育児不安や子育ての悩みが軽減することが期待されます。子育ての悩みを強く感じている保護者は相談や情報提供等を強く求めているため、保育園・幼稚園からのサポートを効果的に行うためには、不安や悩みを感じている者の中でもその悩みが強い者に対して手厚いサポートを行うことが求められているといえます。

子育てで悩む保護者をサポートするためには、日常の保育において保育者と保護者間のコミュニケーションを密接にとり、保育者が保護者と子どもの状況を十分理解することが必要です。本調査結果では、保育者と保護者とのコミュニケーションは十分とはいえません。保護者に対するサポートを効果的に行うためには、まず保育者と保護者のコミュニケーションを密接にとることが求められます。

保育園・幼稚園からのサポートは、育児不安からもたらされる母親の追加出産意欲の減退を防ぎます。したがって、保育園・幼稚園におけるサポートを充実させることは、1保育園、1幼稚園の範囲を超えて、少子化対策としての意義も併せ持つといえます。

調査実施 子育て環境研究会

松田茂樹(第一生命経済研究所・委員長)、井上清美(大妻女子大学)、坂本有芳(お茶の水女子大学大学院)、
汐見和恵(東京文化短期大学)、品田知美(立教大学)、下開千春(第一生命経済研究所)、長町理恵子(日本
経済研究センター)、遠山洋一(全国私立保育園連盟保育・子育て研究機構代表、バオバブ保育園ちいさな家園
長)、斐智恵(慶応義塾大学大学院)、永田沙恵(東京工業大学大学院)



調査企画 社団法人全国私立保育園連盟

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館

電話：03-3865-3880(代) FAX：03-3865-3879 HP：http://www.zenshihoren.or.jp